

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

319-616

事務事業名	医療機器整備事業				財務会計上の位置付け	会計	72	款		項		目		細々目	99	19予算額(千円)	379,800
部等名	市立病院	課等名	経営企画課		包含する細々目												
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり																
施策	32 医療の充実																
実施区分	継続	会計	病院事業	環境調整会議	不要	関連計画 条例等											
		事業期間		年度～	年度												

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	二次医療圏(飯田下伊那地域)の住民及びその他の飯田市立病院利用者	耐用年数の経過や老朽化により更新すべき医療機器の台数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			42	40		
	医療の進歩にともない新たに購入すべき医療機器の台数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
		29	30			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
当地域の医療圏において適正な医療が受けられる	更新済医療機器の比率(当該年度...更新した医療機器数 / 更新要望の医療機器数 %)	18目標	70	最終目標	90	
		18実績	74	19目標		↑
		23目標	80	23実績		最終目標達成年度
	新規購入済医療機器の比率(当該年度...新規購入の医療機器数 / 新規購入要望の医療機器数 %)	18目標	30	最終目標	70	
		18実績	50	19目標		↑
		23目標	50	23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	耐用年数が経過し、老朽化した医療機器の更新。日進月歩の医療の中で良質な医療水準を確保するための高度な医療機器の整備。	生化学自動分析システム、ペリメドジェットウォッシャー 125,318千円 救命救急備品 29,000千円 通常購入医療機器 134,831千円 PET-CT 198,870千円の繰越分	購入した医療機器の台数	52
		デジタルX線テレビ 126,000千円 体外衝撃波結石破碎装置 60,900千円 通常購入機器 150,000千円		
	18年度の実績			
	19年度計画			

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		4,200
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	487,900	332,700
	その他		
一般財源	119		
事業費計(A)	488,019	336,900	
人件費	正規職員所要時間	18年度 960	19年度 960
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	3,433	3,433
	トータルコストA+B	491,452	340,333

特定財源内訳や補足事項	医療施設整備事業補助金 ・国保調整交付金 ・自動車事故対策費補助金 ・病院事業債 充当率100%
-------------	---

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	地域住民の医療福祉の増進、高度救急医療の提供。	必要な医療が受けられると感じる市民の割合	現状値	75.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	80
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

<p>この事業を開始したきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次医療圏(飯田・下伊那)の中核病院として、当地域で提供すべき適正な医療水準を確保する必要性が高まった。 ・日進月歩している医療に対応する必要性が高まった。 ・老朽化した医療機器の更新が必要が高まった。 	<p>事業を取り巻く状況の変化</p> <p>新病院に移転してから14年が経過し、当時購入した機器は老朽化し、その多くは更新の時期を迎えている。また、技術の進歩により高度機能をもった医療機器が開発され、医療現場からのニーズも年々多くなっている。</p> <p>二次医療圏の中核病院として救命救急医療や高度医療の充実を求められている。</p> <p>平成18年度の決算では、市立病院の収益の増により経営改善が進んだ。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見</p> <p>がん診療等における高度医療、産科問題、救命救急医療において積極的な取組を進める。</p>
--	--	--

【See】18年度の振り返り

<p>目的妥当性評価</p>	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) 結びつく (その理由)</p> <p>当地域の医療圏において適正な医療が受けられるため医療機器の整備を行うことは、医療の充実に直結することになる。また、日進月歩している医療のなかで当地域において適正な医療水準を保つことは、地域住民等にとって安心して暮らしていけることに結びつく。</p>	<p>有効性評価</p>	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) 余地がある (その理由)</p> <p>収益の向上により経営の健全化を進め、安定した経営体質を確保することで予算の確保を図る。また、医療を取り巻く環境や住民ニーズの把握に努め、緊急性、必要性の高いものから導入する。</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p> <p>二次医療圏における中核病院としての重要性が年々増しており、地域医療を守るためには、当面縮小は考えられない。また、診療報酬の引き下げなど病院を取り巻く経営環境が厳しくなる中で、限られた予算で効率的な医療機器の調達が必要であり、拡大も考えにくい。</p>		<p>廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) 影響あり (その理由)</p> <p>地域全体の医療水準の低下につながり、安心で安全な医療の提供が難しくなる。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由)</p> <p>適正な医療が受けられることは、安心した暮らしにとって大きな要素であり、見直しは考えられない。</p>		<p>他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？</p>	<p>(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)</p> <p>医師の確保や診療報酬の引き上げなどにより医療機関の経営体質が充実し、連携や機能分化により対応することができる可能性がある。現状では、中核となる医療機関がなく、他の医療機関との統合も考えられない。</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)</p>	<p>(評価) 必要ある (その理由)</p> <p>他の医療機関の充実や機能分化等により地域全体で対応できる体制になるまでは、市立病院が担わなくてはならない。また、経営努力だけでは賄えない費用について、市における一定の負担が必要である。</p>		<p>効率性評価</p> <p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) 不可能 (その理由)</p> <p>毎年、医療現場からの要望が予算を大きく上回り、機器によっては翌年以降へ回している現状の中、一定の事業費の確保が必要である。病院事業として、収益の向上に結びつく一定の医療機器の整備が必要であり、現状では不足の状況であると判断している。</p>
		<p>公平性評価</p> <p>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由)</p> <p>患者への負担は診療報酬で定められており、変更の余地はない。</p>		

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p>実施年度 <input type="text"/></p> <p>具 体 化</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>限られた予算内で十分な機器の更新ができないため、院内における優先順位を協議して購入している。また、年度当初にいったん決めた機器であっても、故障などによる緊急性や医療ニーズの変化により必要と認められる機器を優先し、限られた予算を有効に活用するように工夫している。</p> <p>機器の優先順位の選定が難しく、院内のコンセンサスが取りにくい状況にある。新たな選定方法を構築し、限られた予算を効果的に投資していくことが課題。</p>
--	---

【補足事項環境側面】

<p>(1) 環境影響評価の必要性判断</p>	<p>(2) 必要性な場合の実施事由</p>
<p>(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？</p>	

【指摘事項】

<p>施策マネジメント会議</p>	
<p>施策評価会議</p>	
<p>第5次基本構想基本計画推進委員会</p>	